

# 欧州視察旅行(Ⅲ)見聞記

## —— 野蛮な戦争を風化させてならない ——

26 期生・岡田美乃利

2014年4月15日～24日までの10日間、私は夫婦で中欧6カ国（ハンガリー、スロバキア、オーストリア、ポーランド、チェコ、ドイツ）へ37名のツアーの一員として行ってきました。

15日は夜10時出発なので午後、閑空の日航ホテルで数時間過ごした後、出国手続き、初めてのビジネスでの旅で空港内にあるビジネス専用のラウンジで飲食を済ませた。そこには寿司、刺身、ラーメン、うどん、ソフトドリンクやアルコール類が無料で自由なのでしばらくの間、和食はないので名残惜しく利用させてもらった。

フライトは15時間、さすがに長いと感じたが、訪問先の事前調査でそこでの思いに胸を膨らませて「もう後〇〇時間」と到着を待ちわびた。

私の最大の狙いはポーランドのアウシュヴィッツである。今、日本が憲法を明文、又は解釈で改憲して戦争への道をひた走るかの勢力があるが、戦争とは人間否定の最たるものというのをアウシュヴィッツで見聞したいという思いがこの旅行に結びついた。

### 歴史と環境を重視した街づくりに唸りました

最初の訪問地、ハンガリーのブダペストでは街は同じ高さのビルが数百メートルも続いています。また、ネオンや看板などはほとんど見当たりません。現地のガイドさんに「建築物の高さや看板、ネオンなどは制限しているのですか？」と質問。ガイドさんは「ハンガリー国の起源は896年です。それにちなんで建築物の高さは96mまでと決まっています。看板も制限されています」との答え。また、街は緑の中にあり新緑の季節故、緑が鮮やかでまぶしかったです。日本は街の所々やビルの谷間に緑があり、日本とヨーロッパの街の構造が全く違いました。



### 人間を大切に、人にやさしい国に感動、芸術の街・中欧

さらにガイドさんに「ハンガリーは消費税が25%だそうですが医療費、教育費はどうなんですか？」と質問。ガイドさんは「消費税は25%ですが生活必需品は低いか無税です。新聞や学用品などがそうです。医療費や教育費は無料です。これはヨーロッパに共通しています」との答え。

私は残念ながら日本で消費税が20%、30%になっても医療費や教育費は無料にはならないだろうなと思いました。

これは数年前に訪問した北欧のことですが、病院には当然ながら医療費を支払う窓口はないが、帰りの交通費などが無い人にお金を貸し付ける窓口がありました。

また、ガイドさんに老人ホームなどの利用料はどうなんですか？と質問しましたが、ガイドさんは若い方なので「わかりません。ただ所得に応じての利用料だと聞いています」との答えでした。

## エネルギー対策もしっかりと

オーストリアでは風力発電用の風車がかなりの規模で設置されているのには感心しました。行く先々で風車が1か所に数十基も稼働していました。原発に頼らないエネルギー政策を国が挙げて、きちんとしているなど思いました。これはドイツも同じことでした。

また、芸術を大切にしている中欧の国々だなど思いました。

モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン、ヨハン・シュトラウス、ショパン、チャイコフスキーなど世界に名だたる古典音楽家が活躍した中欧ですが、数百年も前の芸術家だがその方々が作曲に邁進した居住宅など今も大切に保存している姿勢には感心しました。

ガイドブックには「ヨーロッパは歴史と芸術の街」とありましたが、正にその通りでした。

## 400万人もの殺人工場 アウシュヴィッツ

ポーランドのアウシュヴィッツでは現地で唯一の日本人ガイド・中谷剛さんに案内していただいた。収容所の入り口にはゲートが道路を横断する形で、そこには「働けば自由になる」という文字が掲げられている。このゲートをくぐって送られてくる収容者たちはどんな思いでここをくぐって殺人工場へ行ったのだろうか。そのことを思うと胸が痛く締め付けられる。

ガイドの中島さんは「みなさん写真は撮っても良いですが、フラッシュはダメです。また、笑い声もダメです。ユダヤ人などはみんな殺せ、肉親は残すなという命令をナチスは下したため殺された人の肉親の遺族はいませんが、関係者が訪問していることもあります。会話などは注意して下さい」と最初に注意された。

この殺人工場は広いです。送られてきた貨車が今でも陳列されている。そこで降ろされてガス室へ連行され「消毒する」と裸にされガス室で殺人。囚人が施設に入ると書記は写真を撮り、後には囚人番号の入れ墨をした。粗末なスープとパンだけだった日々の食事や、やせ細った囚人の写真もある。女性の髪の毛を切り取って敷物などに紡んだと、そのかなりの髪の毛が保存されている。

子供も障害者（義足や義手などが外されて保存）も区別なく皆殺しである。集団絞首台、3台あった焼却炉（現在は2台）で1日340人もの遺体が焼かれたという。

正に戦争は最大で最悪の人間性否定、そのものだということで胸が痛む。

私は1944年11月生まれで戦争そのものはわからないが、歴史は繰り返されるというが、



アウシュヴィッツ



広大な敷地のアウシュヴィッツ



このアウシュヴィッツは勿論、ヒロシマ、ナガサキからもわかるように戦争は絶対、本当に絶対繰り返してはならないという思いを強くしたポーランドの旅でした。

## 「ドイツの壁」崩壊

ドイツではベルリンの壁を見学。スターリンの悪政が人権を抑圧し、経済を停滞させたことへの怒りがベルリンの壁を崩壊させた。この説明が現地のドイツ人ガイドから詳しく説明された。私は

「スターリンの悪政は良くわかりましたが、ヒトラーの悪政はかなりのものだったでしょう。ドイツ人はヒトラーについて、どう思っているのでしょうかね？」と質問。ガイドの方は「ヒトラーは本当にひどい政治をしました。ドイツではヒトラーを評価すると逮捕されます。だからヒトラーについて余り語りません」とのこと。

ドイツにしろ、ポーランドにしろ戦争の悲惨さ、戦争は人を人とみない惨さを知らされました。

## 手作りの日本の料理は世界一

チェコでは日本人の現地ガイドの方が「アパートの大家の方が、日本人が部屋を借りたいと言って来たが断った。日本人は料理をして部屋を汚すので断った」と言いました。また、「日本人は和食、洋食、中華など世界中のメニューを作ります。チェコでは手の込んだ家庭料理は余りしないようです。弁当も持参して出勤するというのはありません。自宅で油の揚げ物を、なんて日本人だけではないでしょうか。野菜も日本人は良く食べますね。ヨーロッパの人は野菜をあまり食べません。また、野菜を作って農家経営なんてありません」と。しかし、このヘルシー好みの健康管理が長寿世界の源泉ではないでしょうか。

これは大いに誇りにしても良いのではと思いました。

今回の旅行ではあらためて日本を外から見る良い機会となりました。

また、料理やホテルのサービス、お客様本位の設備などは日本では当たり前になっていることが、スゴイと思いました。

以上